

応用数学A

教科書はある1つの本を使うわけではありません。

参考書として

わかりやすい応用数学, 有松宏明, コロナ社

基礎解析学, 矢野健太郎 石原繁, 裳華房

- 主題: ベクトル解析・複素数

達成目標: 講義の内容を理解して、力学、電磁気学、電気電子工学を学ぶために不可欠であるベクトル解析を使いこなせるようにする。また複素数により表される式の物理的な意味を理解して対応できるようにする。

- 評価: レポート、(中間テスト)、期末テスト

応用数学とは

- 数学: 真理(明らかかな正しいこと)の探求
- 応用数学: 数学を通じて社会への貢献を考える

数値解析も応用数学の代表例



この辺りを学ぶのを目標にする

物理のための応用数学、工学系のための応用数学、電子情報系の応用数学
応用数学(臨床工学シリーズ)。。。。

純粋数学

量

1, 2, 3 - 2, -1, 0, 1, 2 ... $-2, \frac{2}{3}, 1.21$ $-e, \sqrt{2}, 3, \pi$ $2, i, -2 + 3i, 2e^{i\frac{4\pi}{3}}$

自然数

整数

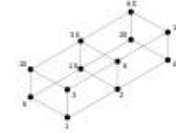
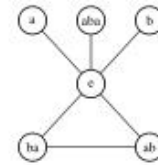
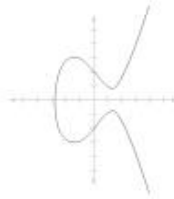
有理数

実数

複素数

構造

(1, 2, 3) (1, 3, 2)
(2, 1, 3) (2, 3, 1)
(3, 1, 2) (3, 2, 1)



組合せ数学

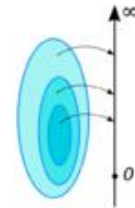
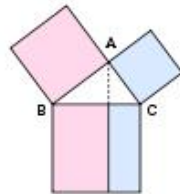
数論

群論

グラフ理論

順序論

空間



幾何

三角法

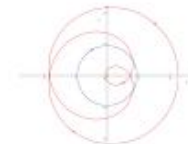
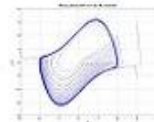
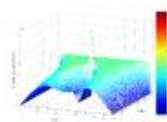
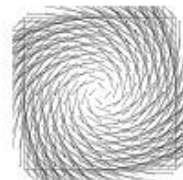
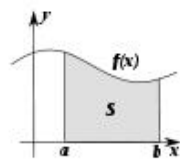
微分幾何

位相幾何

フラクタル幾何

測度論

変化



微分積分学

ベクトル解析

微分方程式

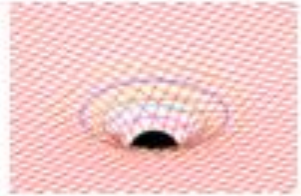
力学系

カオス理論

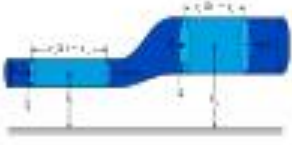
複素解析

<https://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/mathematics.html>

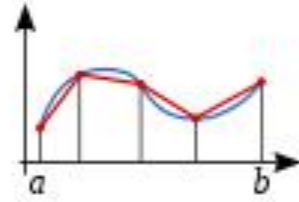
応用数学



数理物理学



流体力学



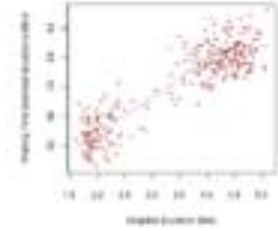
数値解析



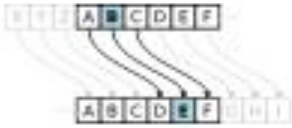
最適化



確率論



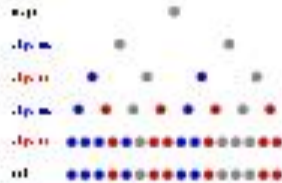
統計



暗号理論



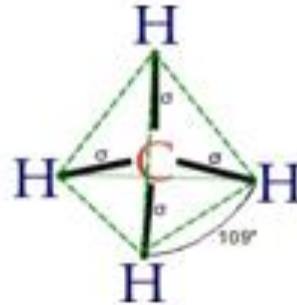
数理ファイナンス



ゲーム理論



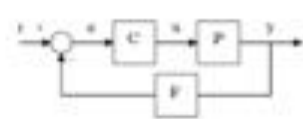
数理生物学



数理化学



数理経済学



制御理論

物理のための応用数学

小野寺 嘉孝 著

目次

- 1 微分と偏微分
 - 2 変分法
 - 3 デルタ関数
 - 4 直交関数系
 - 5 直交多項式
 - 6 合流型超幾何関数
 - 7 ガンマ関数
 - 8 ベッセル関数
 - 9 境界値問題とグリーン関数
- 付録 関数論入門

わかりやすい 応用数学

ベクトル解析・複素解析・ラプラス変換・フーリエ解析

理学博士 有末宏明
博士(工学) 片山登揚 共著
博士(理学) 松野高典
博士(理学) 穂田吉成

目次

- 1 ベクトル解析(ベクトルの定義と
いくつかの演算
ベクトルの内積と外積 ほか)
- 2 複素解析(複素数
正則関数 ほか)
- 3 ラプラス変換(複素数
ラプラス変換の定義と例 ほか)
- 4 フーリエ解析(フーリエ級数
正弦フーリエ級数・余弦フーリエ
級数 ほか)

応用数学の基礎

第6版

凡礼ロマンノフスキー 著
久保忠雄 訳

- 第1章 フーリエ級数とフーリエ積分
- 第2章 ベクトル場の理論の基礎
- 第3章 解析関数論の基礎
- 第4章 若干の特殊関数
- 第5章 ラプラス変換

本授業で主なカバーされる内容

できれば、なぜを考えるといい
できれば歴史を考えるといい
ぜひ、空間をイメージすることを

ベクトル

化学 << 力学 << 電磁気学

積分

複素数

大まかな内容

1. ベクトルの内積・外積の復習
2. ベクトル値関数の微分・積分
3. 曲線のベクトル関数, 曲線の長さ
4. 曲面・接平面のベクトル関数、曲面積
5. 極座標表示と立体角
6. スカラー場の勾配、ベクトル場の発散
7. ベクトル場の回転、ラプラス演算子、ポテンシャル
8. 線積分と面積分
9. グリーンの定理.
10. ストークスの定理,
11. ガウスの発散定理
12. 複素数表示、四則演算
13. 三角関数の複素数表示、累乗根
14. 複素数を使用する具体的な例

ベクトルの外積に関する考察

— その概念の広がり と 教材性 に関して —

今岡光範

(2008年10月2日受理)



William Rowan Hamilton
1805-1865

2.3. 歴史的側面

「ベクトル」という表現は、1845年のハミルトンの論文に初めて登場したという⁹⁾。ハミルトンは、アイルランドの王室天文学者という称号を得た人であるが、数学や物理の分野でも優れた研究をした人である。数学の研究においては、特に、四元数の創始者として名高い⁷⁾。以下に記述するように、四元数は外積と関係が深く、外積の概念の起りにはハミルトンの研究にあると考えられる。

四元数は、実数の概念を拡張した数であり、その集合には実数と同様に四則演算が定義できる。ただし、積に関して $xy=yx$ という可換性だけは成り立たない。そのように、四元数の集合は、積の可換性は満たさないがそれ以外の通常の四則演算の法則はすべて満たす数の集合である斜体というものになっている。高校の教材でもお馴染みの複素数は、やはり実数の概念を拡張した数であるが、その集合は、積の可換性も含めて実数の四則演算と同じ法則を満たす体というものになっている。実際、複素数は、閉体という、実数よりもすぐれた体である。加えて、複素数は平面の幾何的解釈を伴い、関数論を始め幅広い応用性を有している。ハミルトンは、三次元空間において本質的な役割を果たす数の体系を作れば、それは複素数以上に優れたものができるといふ信念をもって、四元数の概念を

つけるというのが、ハミルトンがめざしたものであった。二つの純四元数 q, q' に対応する空間ベクトルをそれぞれ v, w とすると、 v と w の外積は、 q, q' の積のベクトル部分 $V(qq')$ に対応する。すなわち、この対応を等号で表わせれば、次が成り立つことが分かる。

$$v \times w = V(qq')$$

これが、外積と四元数の積との関係である。このように、外積は四元数に密接した概念であり、空間ベクトルが考えられたごく初期の段階から存在したものであることが分かる。

四元数の積の演算は、空間における回転の合成を記述するのに有用である (たとえば、Steenrod(1951)¹⁰⁾、横田(1973)¹⁷⁾、一松(1997)¹⁵⁾)。それゆえ、外積も空間の回転と深く関係している。実際、空間のベクトル値関数 $v=(x, y, z)$ (ベクトル場) に対して、その回転 $\text{Rot}(v) = \nabla \times v$ は外積を用いて表わされる。

四元数は、ハミルトン以後、アイルランドを中心とした熱狂的な愛好家達によって研究されたが、複素数ほどまでには優れた数ではないことが判明している。ただ、物理や工学などへの数学の応用の中心は三次元空間であり、三次元空間で特有な数学の道具が比較的少ないことを考えれば、四元数および外積は、三次元空間の性質を調べる上で貴重な概念であると言えよう。

四元数を、少し具体的にみてみよう。四元数 q は、

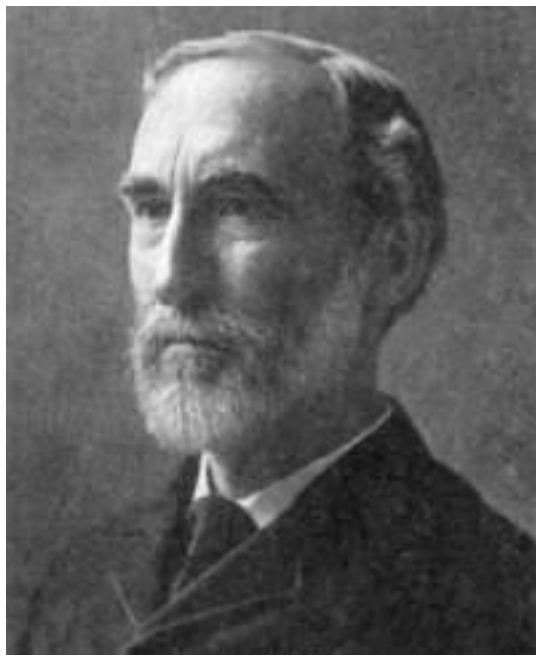
$$i^2 = j^2 = k^2 = -1, \quad ijk = -1$$

という関係を満たす単位 i, j, k を用いて、

$$q = a + bi + cj + dk \quad (a, b, c, d \text{ は実数})$$

の形に表される数である。このとき、 a を q の実部、 $bi + cj + dk$ を q のベクトル部分という。四元数 q と

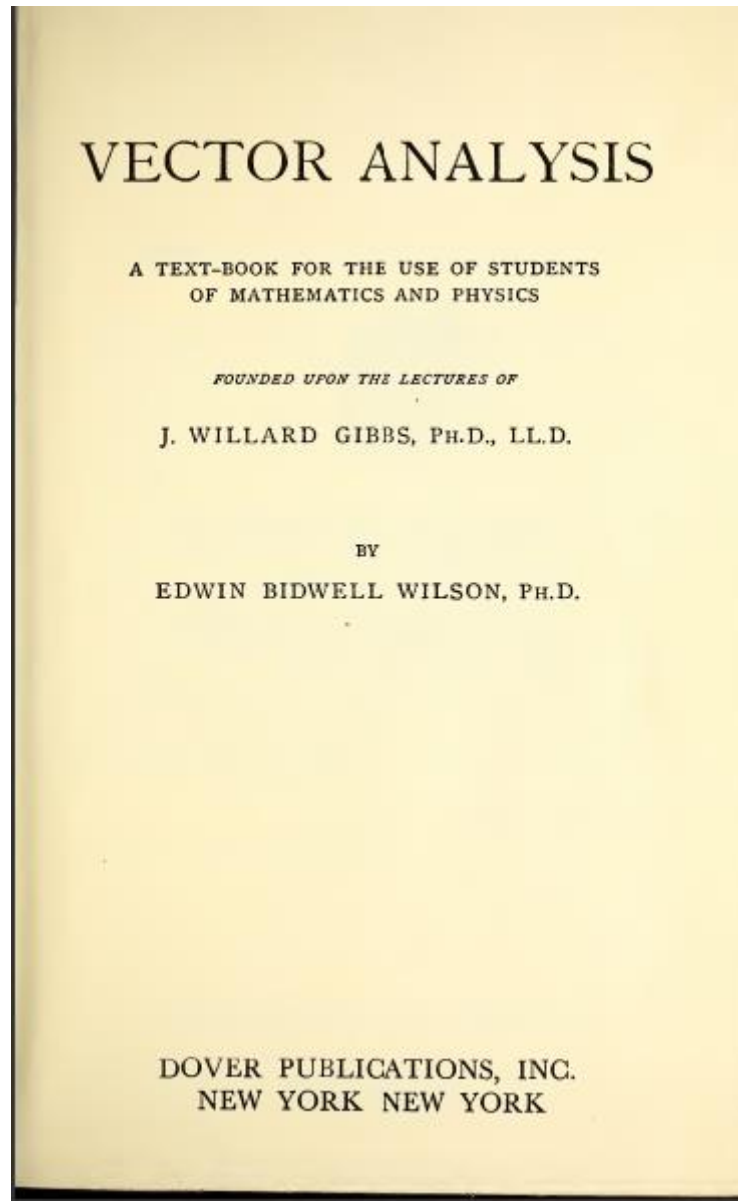
<https://ia801703.us.archive.org/29/items/vectoranalysis00gibb/vectoranalysis00gibb.pdf>



1839–1903

J. Willard Gibbs

ベクトル解析を始めた？



2.] **Definition** : A vector is a quantity which is considered as possessing direction as well as magnitude.

Definition : A scalar is a quantity which is considered as possessing magnitude but no direction.

方向と大きさ

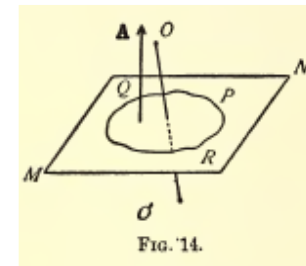
Scalar Multiplication

6.] **Definition**: A vector is said to be multiplied by a positive scalar when its magnitude is multiplied by that scalar and **its direction is left unaltered**.

正の積は方向が変わらない

The Use of Vectors to denote Areas

25.] **Definition** : An area lying in one plane MN and bounded by a continuous curve PQR which nowhere cuts itself is said to appear positive from the point when the letters PQR follow each other in the counterclockwise or positive order ; negative, when they follow in the negative or clockwise order (Fig. 14).



面の定義

Application of the theory of reciprocal systems to the solution of scalar and vector equations of the first degree in an unknown vector. The vector equation of a plane is

$$\mathbf{r} \cdot \mathbf{A} = a. \quad (36)$$

Applications of the methods developed in Chapter II., to the treatment of a system of forces acting on a rigid body and in particular to the reduction of any system of forces to a single force and a couple of which the plane is perpendicular to that force. Application of the methods to the treatment of instantaneous motion of a rigid body obtaining

$$\mathbf{v} = \mathbf{v} + \mathbf{a} \times \mathbf{r} \quad (46)$$

where v is the velocity of any point, v a translational velocity in the direction a , and a the vector angular velocity of rotation.

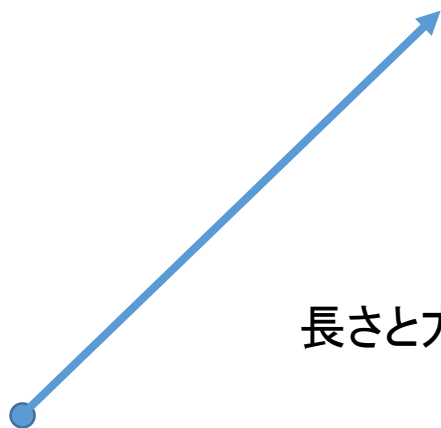
Further application of the methods to obtain the conditions for equilibrium by making use of the principle of virtual velocities. Applications of the method to obtain the relations which exist between the nine direction cosines of the angles between two systems of mutually orthogonal axes. Application to special problems in geometry including the form under which plane coordinates make their appearance in vector analysis and the method by which planes (as distinguished from finite plane areas) may be represented by vectors.

平面の方程式

剛体に作用する力の取り扱い

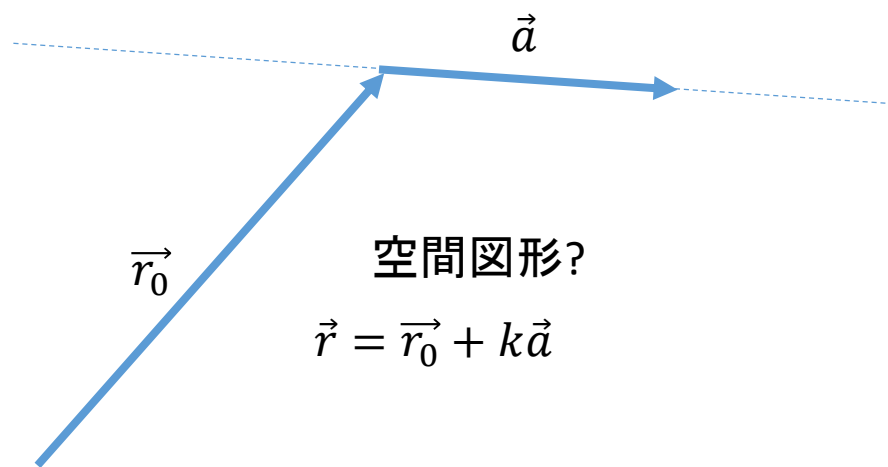
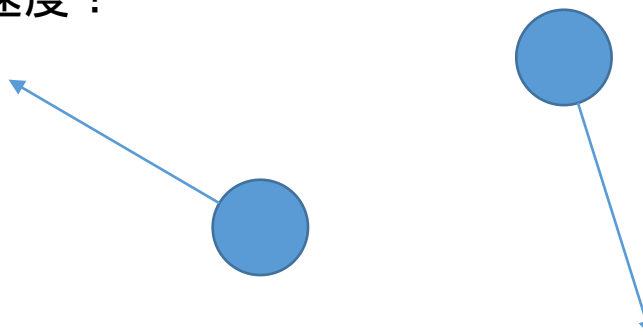
平面座標をベクトルで表記した特別な幾何学の問題

ベクトルとは何？



長さや方向を持っている矢印？

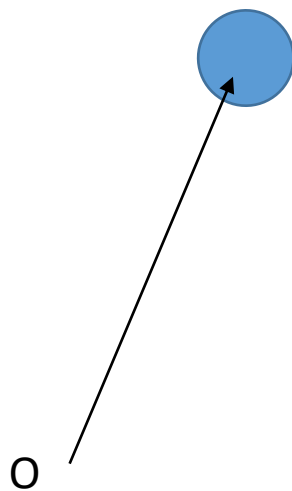
速度？



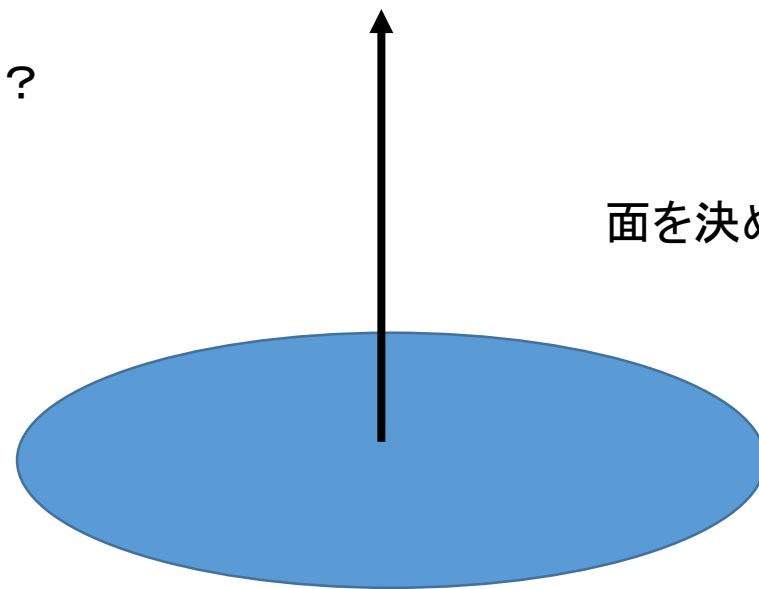
空間図形？

$$\vec{r} = \vec{r}_0 + k\vec{a}$$

位置を決める？

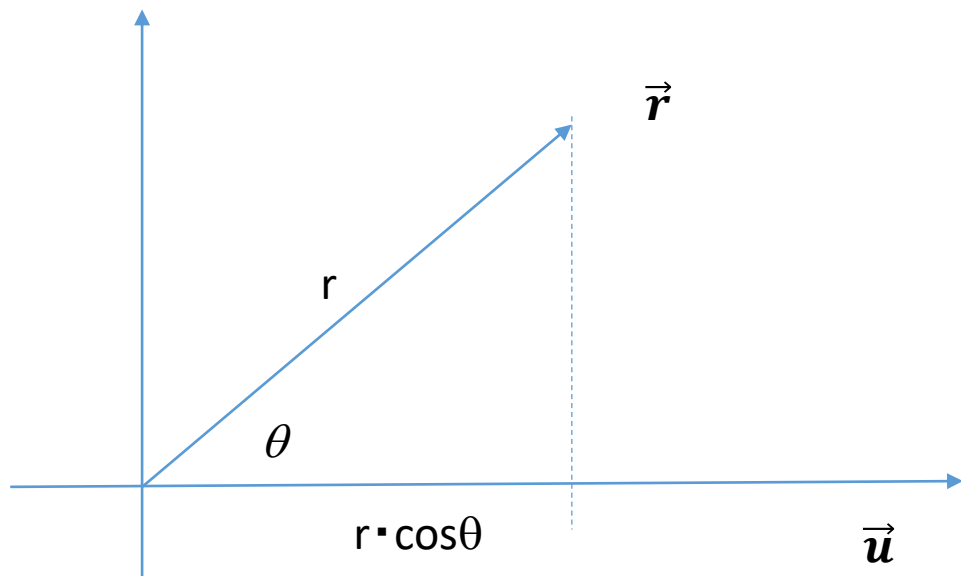


面を決める？



ベクトルの演算

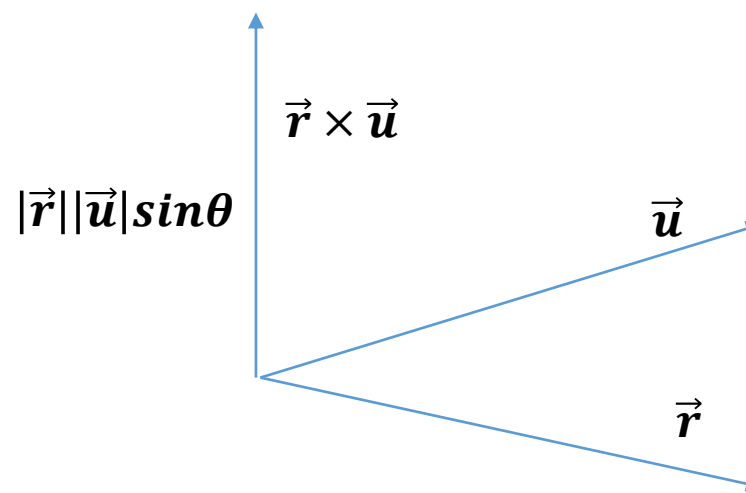
内積



$$\vec{r} \cdot \vec{u} = |\vec{r}| |\vec{u}| \cos \theta$$

$$\begin{pmatrix} r_1 \\ r_2 \\ r_3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \\ u_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} r_1 u_1 \\ r_2 u_2 \\ r_3 u_3 \end{pmatrix}$$

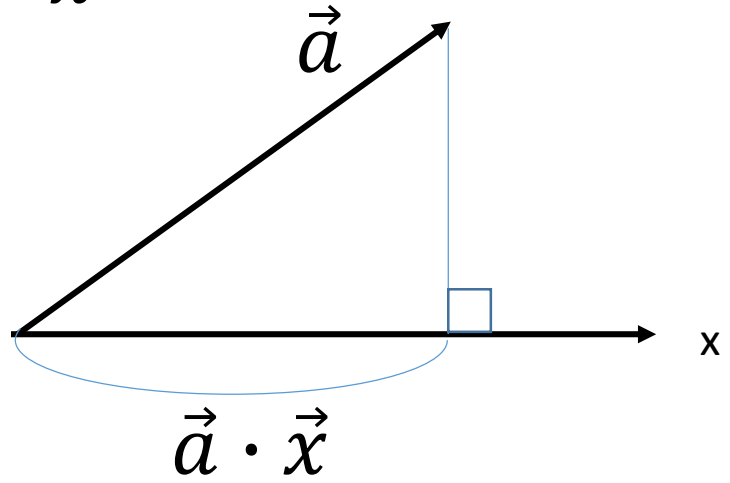
外積



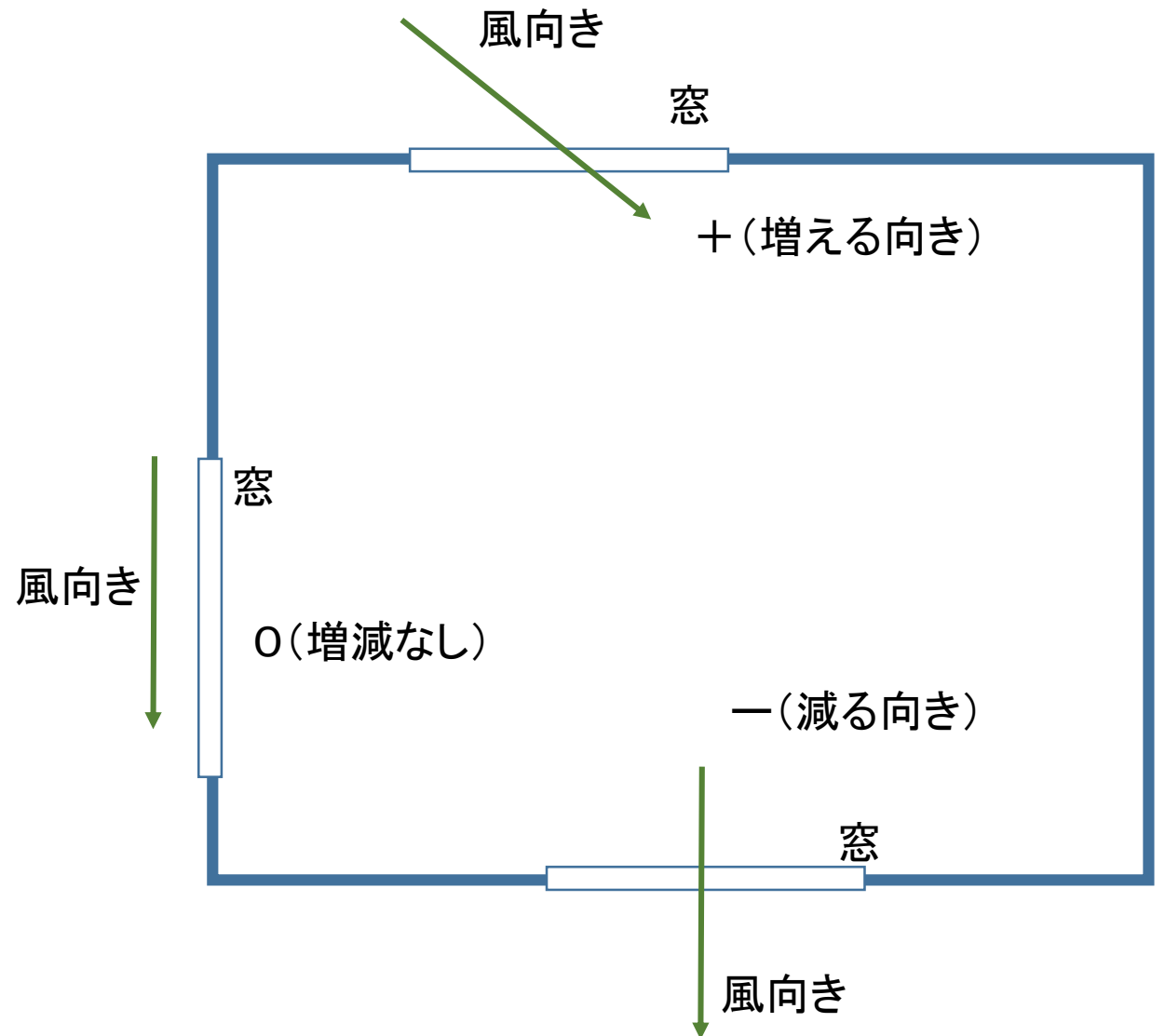
$$\begin{pmatrix} r_1 \\ r_2 \\ r_3 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \\ u_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} r_2 u_3 - r_3 u_2 \\ r_3 u_1 - r_1 u_3 \\ r_1 u_2 - r_2 u_1 \end{pmatrix}$$

例えば内積の意味は？

$$\vec{a} \cdot \vec{x}$$

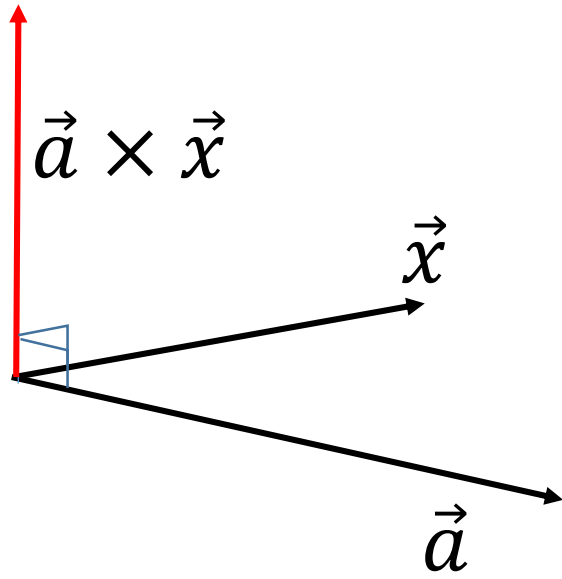


同じ風(ベクトル)でも家の中への効果が違う

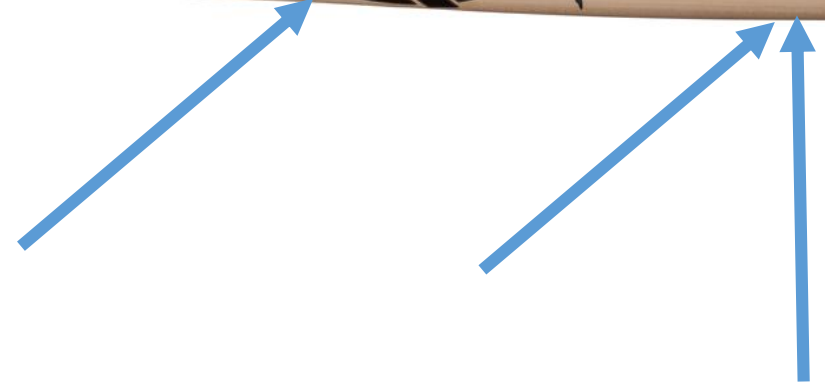


例えば、外積の意味は？

$$\vec{a} \times \vec{x}$$

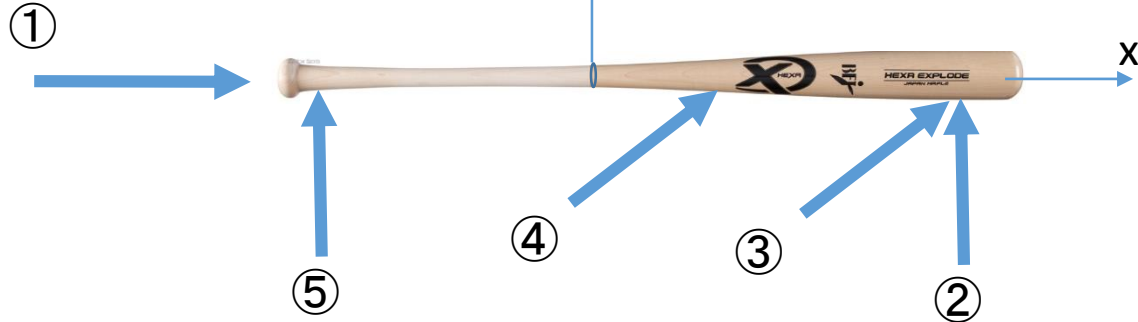


バットを回そうと思ったら

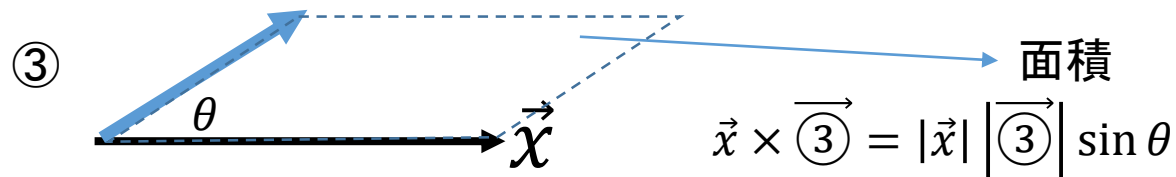
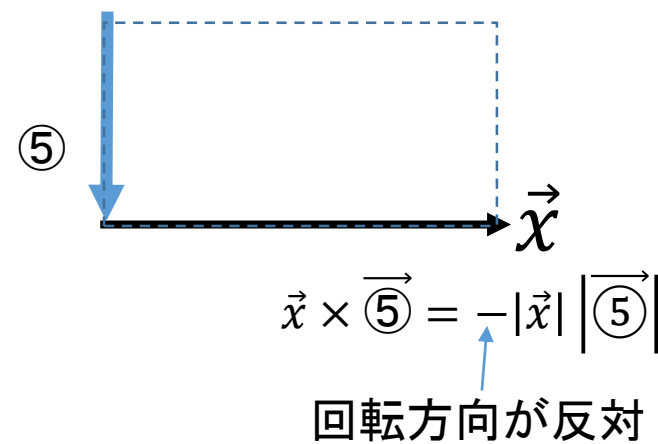
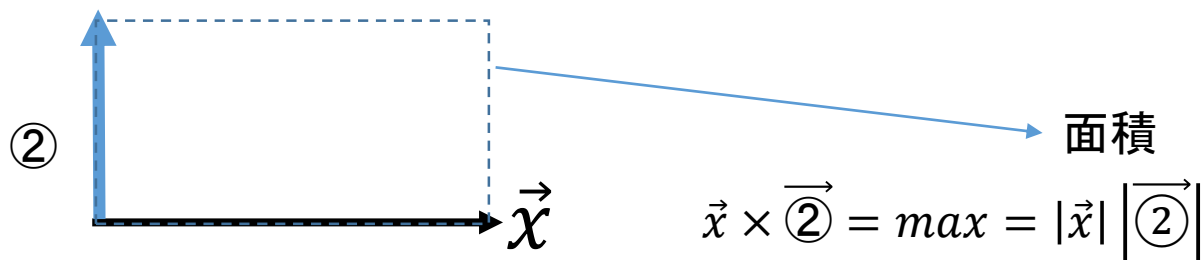
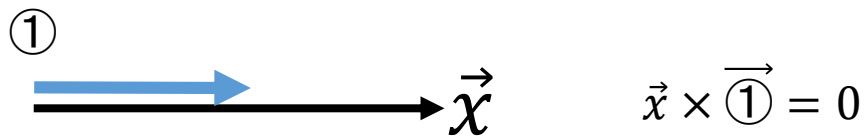


外積(つづき)

$$\vec{a} \times \vec{x}$$

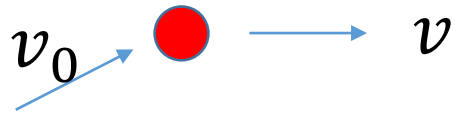


- ①は効力0
- ②は最も有効
- ③は同じ点を押しても②より弱い
- ④は同じ力でも③より弱い
- ⑤は②と位置も力も同じだけど回転方向が逆



電磁気学への応用ではベクトルがいっぱい

電場 \vec{E}

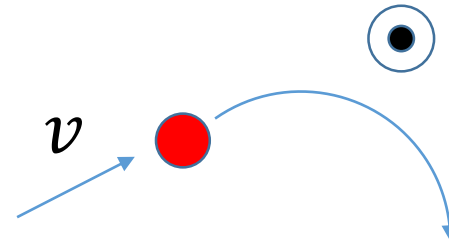


$$\vec{F} = q\vec{E}$$

$$\frac{d\vec{v}}{dt} = q\vec{E}$$

$$\vec{v} = \vec{v}_0 + q\vec{E}t$$

磁場 \vec{B}

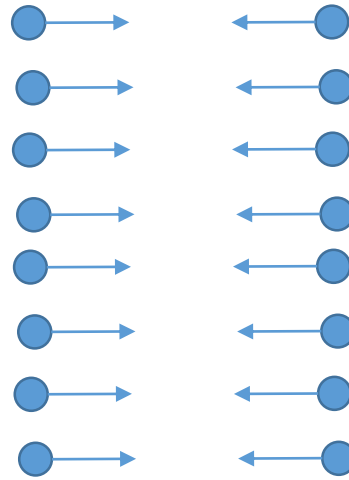
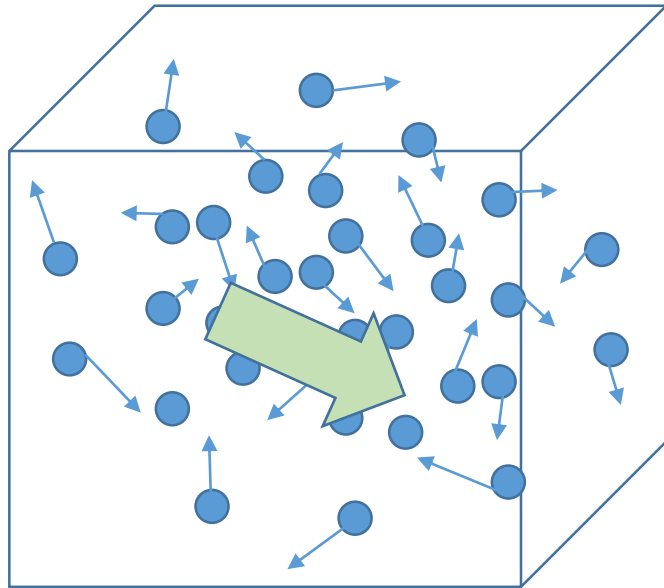
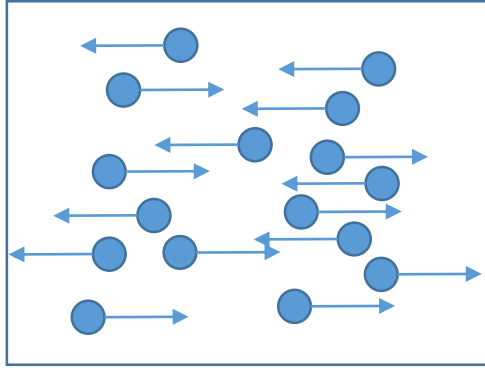


$$\vec{F} = q\vec{v} \times \vec{B}$$

$$\frac{d\vec{v}}{dt} = q\vec{v} \times \vec{B}$$

$$\vec{v} = \vec{v}_0 + q \int \vec{v} \times \vec{B} dt$$

多次元空間を表すという考え (積分)



流れは
 $V_+ = V_-$
 $u = 0$

$$\int \vec{v} f(\vec{v}) d\mathbf{v} = \vec{u}$$

ベクトル量を積分？

スカラー \Rightarrow ベクトル \Rightarrow テンソル (行列)

$$\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{21} & a_{31} \\ a_{12} & a_{22} & a_{32} \\ a_{13} & a_{23} & a_{33} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$$

$$y_1 = a_{11}x_1 + a_{21}x_2 + a_{31}x_3$$

$$y_2 = a_{12}x_1 + a_{22}x_2 + a_{32}x_3$$

$$y_3 = a_{13}x_1 + a_{23}x_2 + a_{33}x_3$$

連立方程式

線形代数
線形応答?

質点 \Rightarrow 平面 \Rightarrow 立体

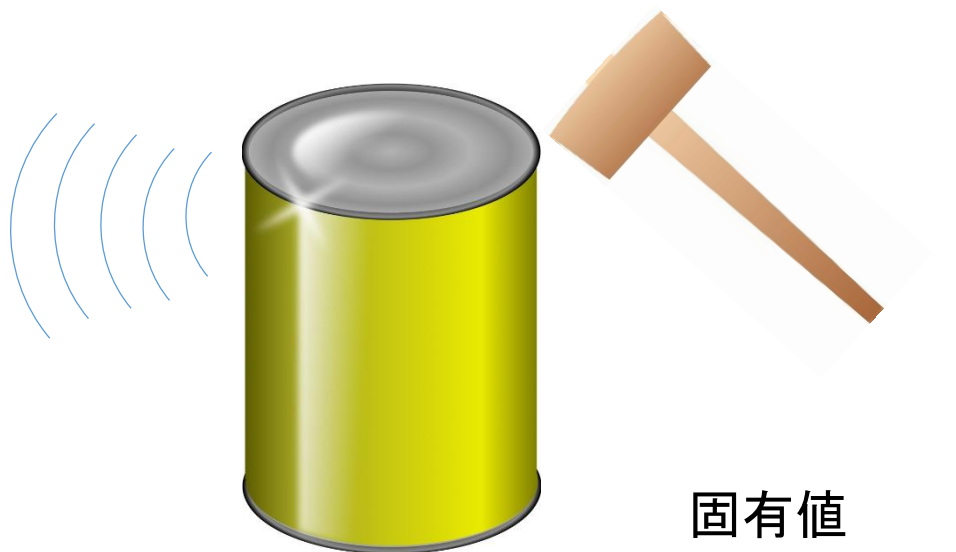
対角、非対角要素の意味

(みかんの値段
リンゴの値段
バナナの値段)

$$= \begin{pmatrix} \boxed{\text{みかんの単価}} & \boxed{\text{みかんにリンゴを混ぜた時の下がる金額}} & \boxed{\text{みかんにバナナを混ぜた時の下がる金額}} \\ \boxed{\text{リンゴにみかんを混ぜた時の下がる金額}} & \boxed{\text{リンゴの単価}} & \boxed{\text{リンゴにバナナを混ぜた時の下がる金額}} \\ \boxed{\text{バナナにみかんを混ぜた時の下がる金額}} & \boxed{\text{バナナにりんごを混ぜた時の下がる金額}} & \boxed{\text{バナナの単価}} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \text{みかんの個数} \\ \text{リンゴの個数} \\ \text{バナナの個数} \end{pmatrix}$$

行列の応答式？

$$\mathbf{A} = \mathbf{M} \mathbf{A}$$



固有値
固有振動数

時間に依存しない
シュレディンガー方程式
量子力学

$$H\varphi(\mathbf{r}) = \varepsilon\varphi(\mathbf{r})$$

行列
ベクトル
スカラー

固有値

以下のベクトル式は解ける？

$$(a \quad b \quad c) \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \quad ax + by + cz$$

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} (a \quad b \quad c)$$

行列と考えてみれば？

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{21} & a_{31} \\ a_{12} & a_{22} & a_{32} \\ a_{13} & a_{23} & a_{33} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_{11} & b_{21} & b_{31} \\ b_{12} & b_{22} & b_{32} \\ b_{13} & b_{23} & b_{33} \end{pmatrix} = a_{ji} b_{kj}$$

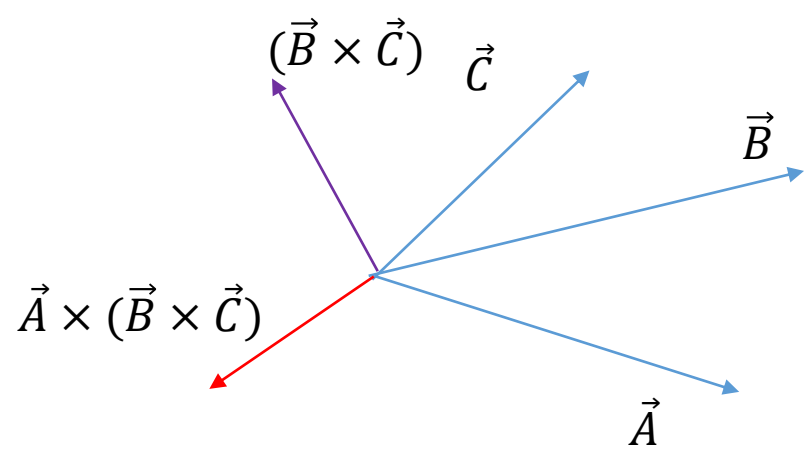
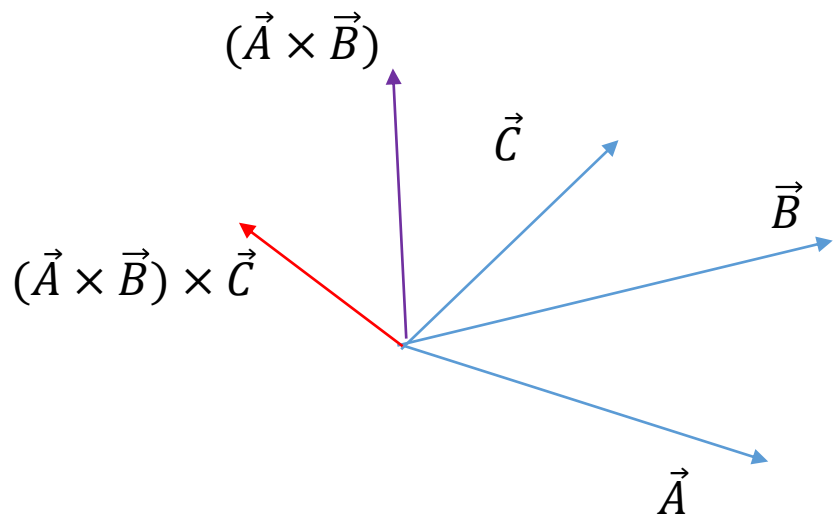
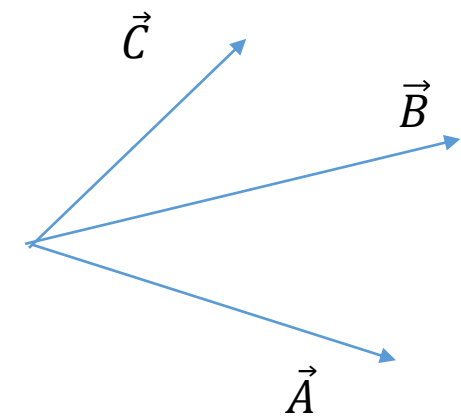
$$\begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{12} \\ a_{13} \end{pmatrix} (b_{11} \quad b_{21} \quad b_{31})$$

$$\vec{A} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix} \quad \vec{X} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

$$\vec{A} \times \vec{X} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} bz - cy \\ cx - az \\ ay - bx \end{pmatrix}$$

たすき掛け 覚えましょう

$(\vec{A} \times \vec{B}) \times \vec{C}$ と $\vec{A} \times (\vec{B} \times \vec{C})$ は同じか？



$$\vec{A} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix} \quad \vec{B} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix} \quad \vec{C} = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \end{pmatrix}$$

$$\vec{A} \times \vec{X} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} bz - cy \\ cx - az \\ ay - bx \end{pmatrix}$$

$$(\vec{A} \times \vec{B}) \times \vec{C} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_2 b_3 - a_3 b_2 \\ a_3 b_1 - a_1 b_3 \\ a_1 b_2 - a_2 b_1 \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} & \begin{pmatrix} a_2 b_3 - a_3 b_2 \\ a_3 b_1 - a_1 b_3 \\ a_1 b_2 - a_2 b_1 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} (a_3 b_1 - a_1 b_3)c_3 - (a_1 b_2 - a_2 b_1)c_2 \\ (a_1 b_2 - a_2 b_1)c_1 - (a_2 b_3 - a_3 b_2)c_3 \\ (a_2 b_3 - a_3 b_2)c_2 - (a_3 b_1 - a_1 b_3)c_1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \vec{A} \times (\vec{B} \times \vec{C}) &= \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} b_2 c_3 - b_3 c_2 \\ b_3 c_1 - b_1 c_3 \\ b_1 c_2 - b_2 c_1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} (b_1 c_2 - b_2 c_1)a_2 - (b_3 c_1 - b_1 c_3)a_3 \\ (b_2 c_3 - b_3 c_2)a_3 - (b_1 c_2 - b_2 c_1)a_1 \\ (b_3 c_1 - b_1 c_3)a_1 - (b_2 c_3 - b_3 c_2)a_2 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

ベクトル三重積

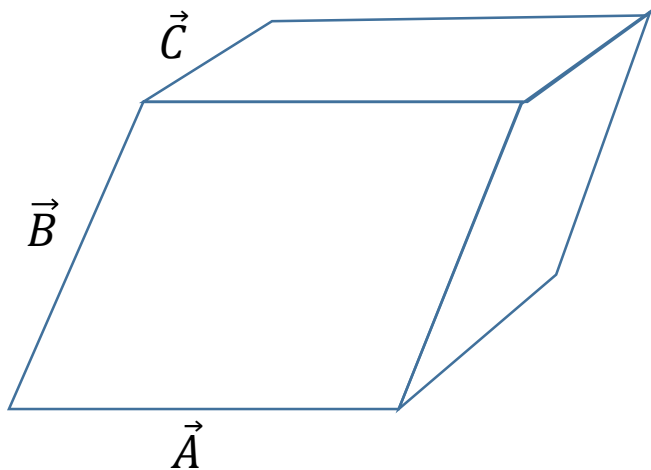
$$A \times (B \times C) = (A \cdot C)B - (A \cdot B)C$$

$$(A \times B) \times C = (A \cdot C)B - (B \cdot C)A$$

$$(A \times B) \times C = -C \times (A \times B) = -(C \cdot B)A + (C \cdot A)B$$

スカラー三重積

$$A \cdot B \times C = B \cdot C \times A = C \cdot A \times B$$



の体積

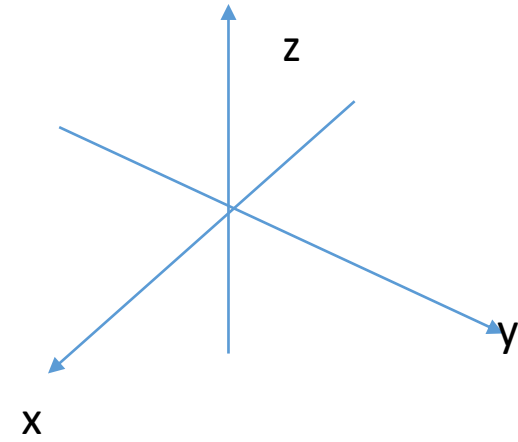
どっちから(内積?外積?)やるの?

$$A \cdot B \times C = \begin{vmatrix} a1 & a2 & a3 \\ b1 & b2 & b3 \\ c1 & c2 & c3 \end{vmatrix} \quad \text{行列式}$$

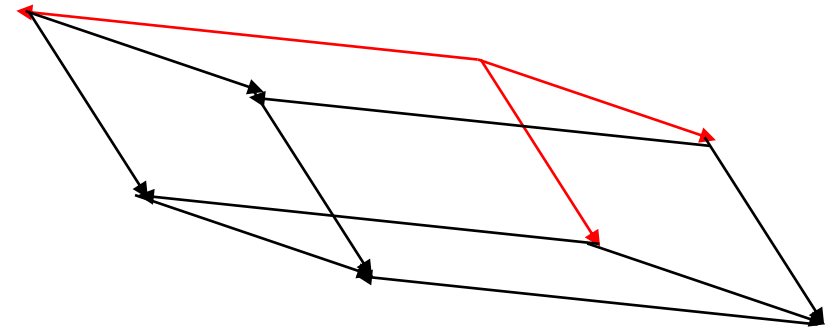
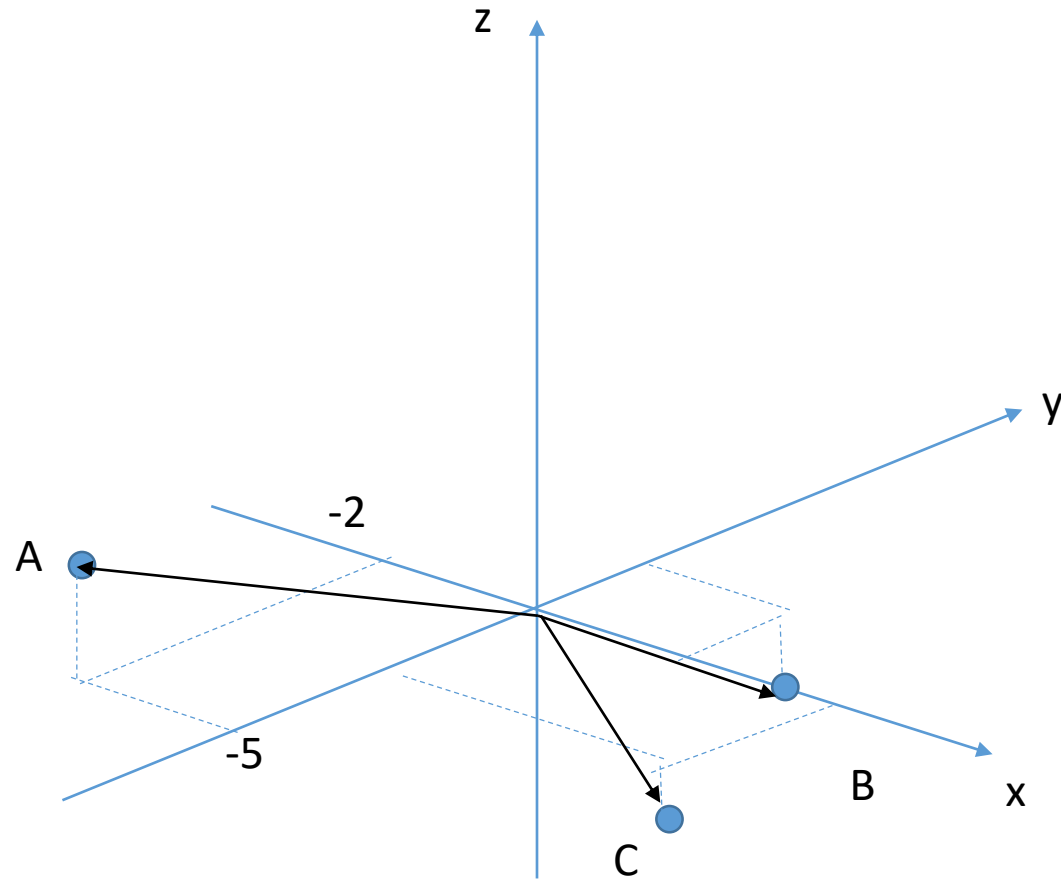
$$\begin{vmatrix} a1 & a2 & a3 \\ b1 & b2 & b3 \\ c1 & c2 & c3 \end{vmatrix} - \begin{vmatrix} a1 & a2 & a3 \\ b1 & b2 & b3 \\ c1 & c2 & c3 \end{vmatrix}$$

ベクトルの確認問題

[1] 3つの $A(-2, -5, 1)$ 、 $B(2, 1, -1)$ 、 $C(3, -2, 1)$ A, B, C ベクトルで作られる平行6面体を図示しなさい。そして、その体積を計算しなさい。



[1] 3つのA(-2, -5, 1)、B(2, 1, -1), C(3, -2, 1) A, B, Cベクトルで作られる平行6面体を図示しなさい。そして、その体積を計算しなさい。

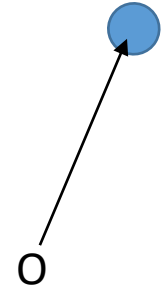


$$A \cdot B \times C = B \cdot C \times A = C \cdot A \times B$$

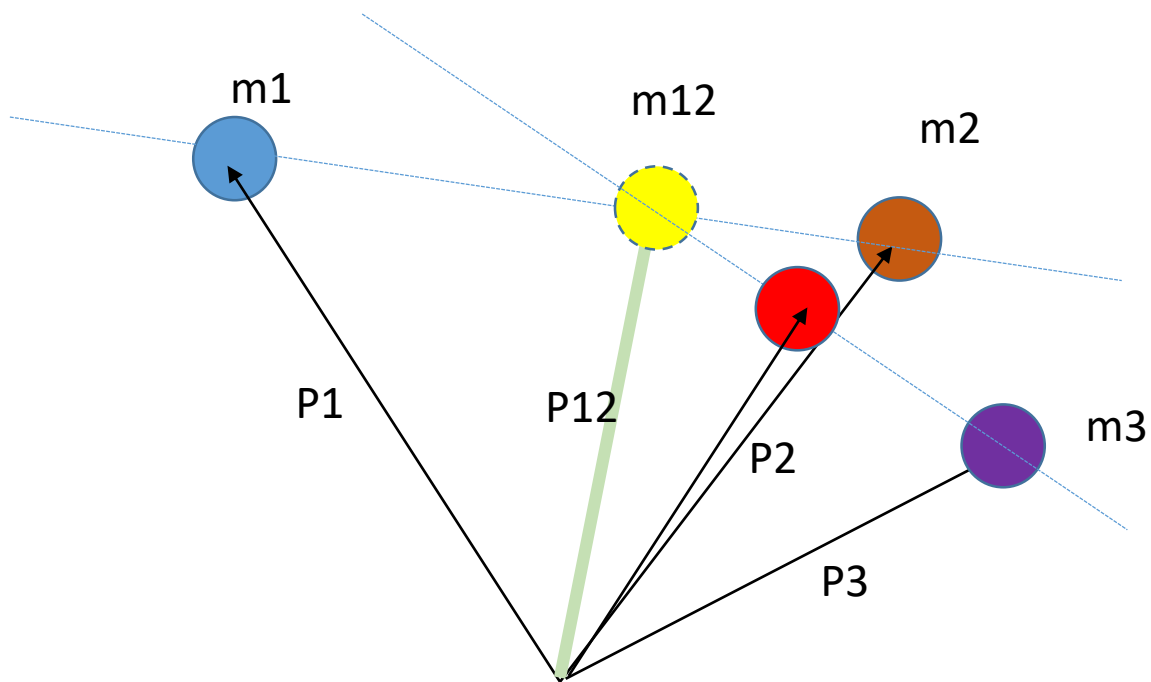
外積は面積
内積は $\cos \theta$ 分

ベクトルの確認問題

[2] 位置ベクトル 3つの $A(-2, -5, 1)$ 、 $B(2, 1, -1)$ 、 $C(3, -2, 1)$ に質量がそれぞれ1, 2, 3 が置いてある場合、その重心位置を求めなさい。2つの質点を図示して見ること。



[2] 位置ベクトル 3つのA(-2, -5, 1)、B(2, 1, -1)、C(3, -2, 1)に質量がそれぞれ1, 2, 3 が置いてある場合、その重心位置を求めなさい。2つの質点を図示して見ること。



重み付

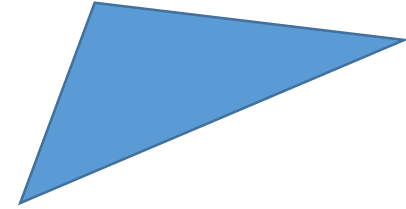
$$\overrightarrow{OX} = \frac{\sum m_i \overrightarrow{P_i}}{\sum m_i} = \frac{1 \begin{pmatrix} -2 \\ -5 \\ 1 \end{pmatrix} + 2 \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} + 3 \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}}{1 + 2 + 3} = \frac{\begin{pmatrix} 11 \\ -9 \\ 2 \end{pmatrix}}{6}$$

$$\overrightarrow{P_{12}} = \frac{1 \begin{pmatrix} -2 \\ -5 \\ 1 \end{pmatrix} + 2 \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}}{1 + 2} = \frac{\begin{pmatrix} 2 \\ -3 \\ -1 \end{pmatrix}}{3}$$

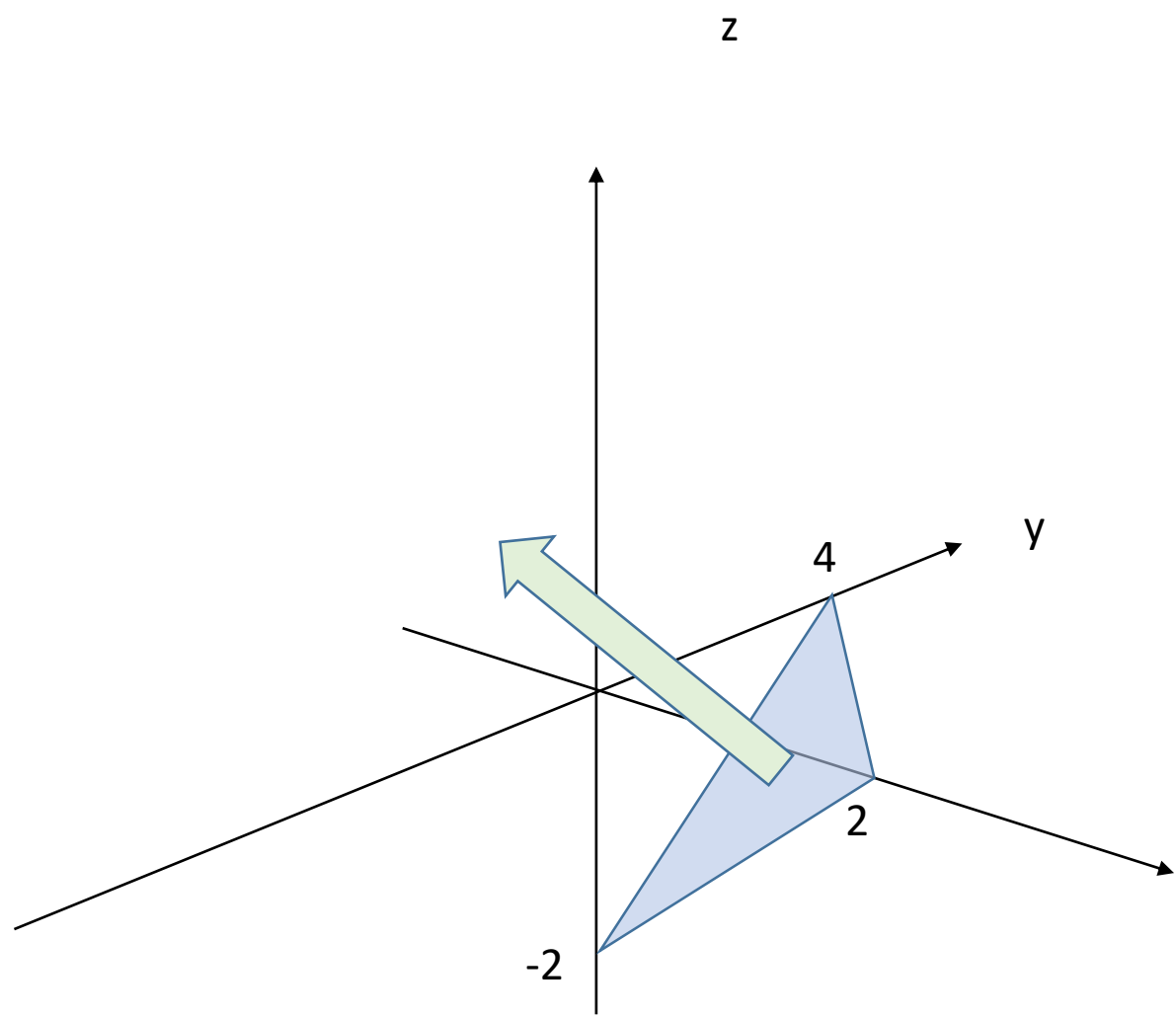
$$\overrightarrow{P_{123}} = \frac{\frac{1+2}{3} \begin{pmatrix} 2 \\ -3 \\ -1 \end{pmatrix} + 3 \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}}{1 + 2 + 3} = \frac{\begin{pmatrix} 11 \\ -9 \\ 2 \end{pmatrix}}{3}$$

ベクトルの確認問題

[3] x 切片が2、 y 切片が4、 z 切片が-2の時の平面に垂直なベクトルを求めなさい。図示してみることに。



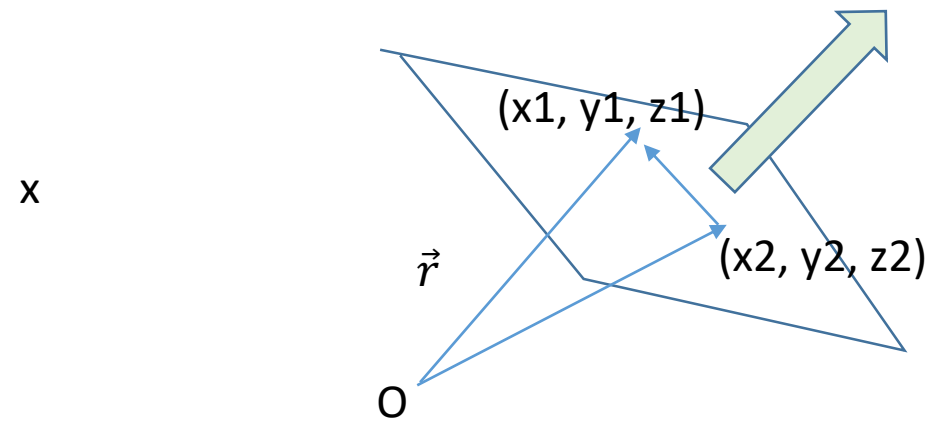
[3] x切片が2、y切片が4、z切片が-2の時の平面に垂直なベクトルを求めなさい。図示してみることに。



$$\frac{x}{2} + \frac{y}{4} + \frac{z}{-2} = 1$$

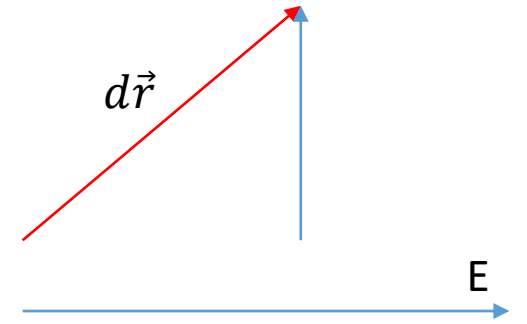
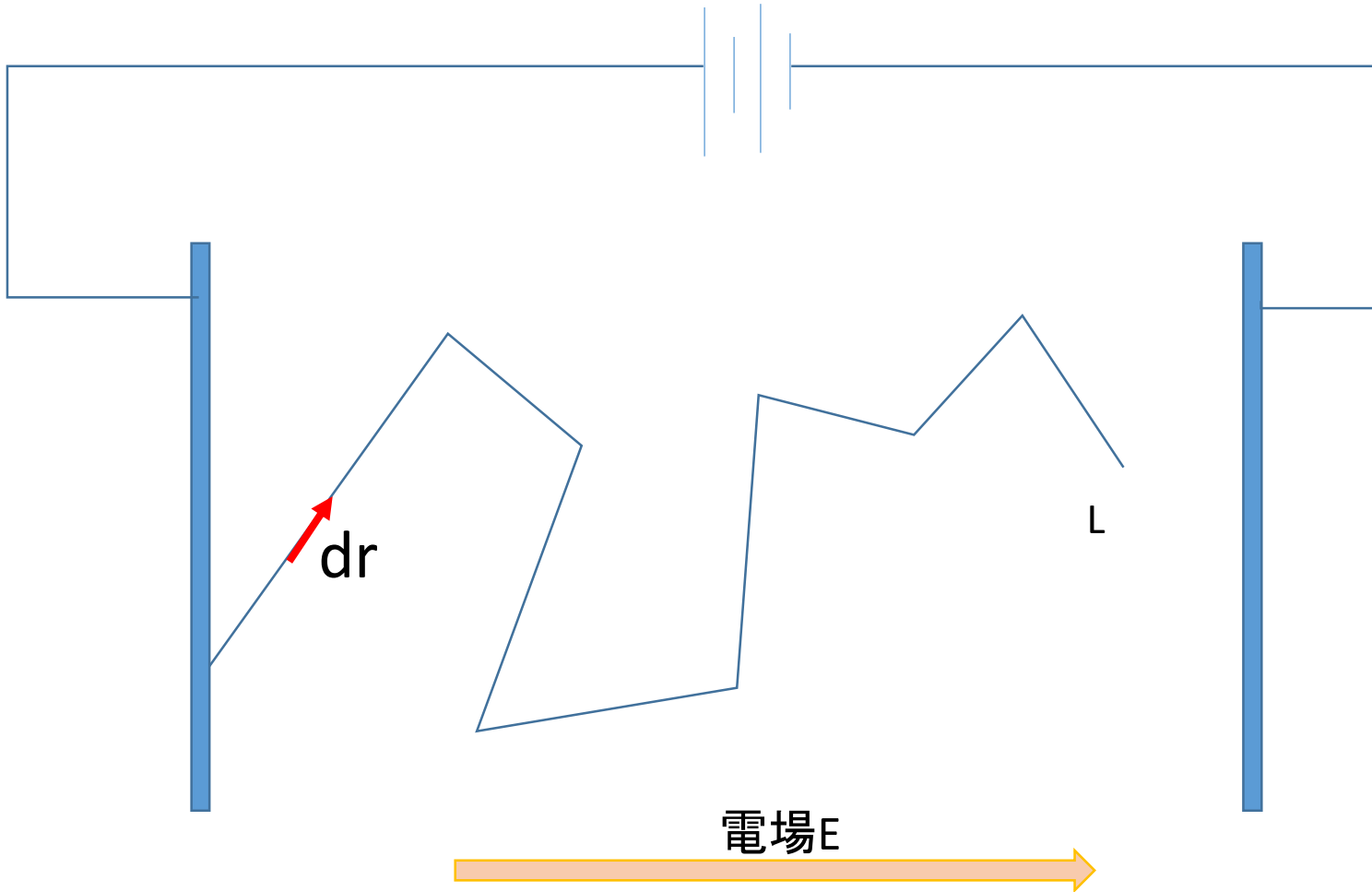
$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1/2 \\ 1/4 \\ -1/2 \end{pmatrix} = 1$$

$$\left(\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \\ z_2 \end{pmatrix} \right) \cdot \begin{pmatrix} 1/2 \\ 1/4 \\ -1/2 \end{pmatrix} = 0$$



次は、ベクトルの微分、積分

なぜベクトルの微分や積分の必要性



$$F = e\vec{E}$$

$$\Delta\phi = \vec{F} \cdot d\vec{r}$$

$$\phi = \int_L F \cdot d\vec{r}$$